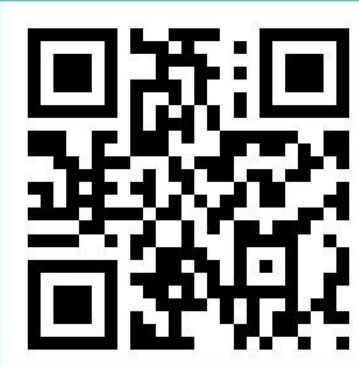




令和8年 第1回定例会 予算審査特別委員会

笑顔かがやく支えあいの川崎を推進!

令和8年第1回定例会が令和8年2月12日から3月18日の会期で開かれ、令和8年度予算を審議する予算審査特別委員会が3月5日、6日、9日、10日の4日間開催されました。春たかあきは予算審査特別委員会において、以下の質問をしました。

久地駅の利便性を高める「臨時改札」開設へ!

朝のピーク時、上下線合わせて35本もの列車が行き交う久地踏切。その混雑と遮断時間の長さは、通勤・通学の大きな負担となっています。日々この状況に不安や不便を感じておられる住民の皆様の声をもとに、**春たかあき**は、早期の環境改善を求めました。



まちづくり局長は、「令和10年春の臨時改札口開設に向け、JR東日本との覚書締結に向けた協議を順調に進めている。今後は利用実態を詳細に分析し、最大限の利便性を確保した運用を目指す」と答えました。**春たかあき**は、臨時改札の設置を着実な前進として評価しつつ、これが暫定的な対応にとどまり、本整備である「橋上駅舎化」の先送りにつながることはないよう求めました。

多摩川河川敷マラソンコースの万全な整備を!

現在、マラソンコースとして併用されている多摩川の緊急用河川敷道路は降雨時に発生した水たまりが、なかなか排水できず、歩行困難となる期間が長く、マラソンだけでなく日常的な利用にも支障が生じていました。**春たかあき**は、



実効性のある舗装整備を含め、抜本的な対策を求めました。建設緑政局長は「河川管理者の国土交通省京浜河川事務所と協議を行い、改修について検討する」と答えました。

民生委員、児童委員の確保・育成を急げ!

高齢化の進展や一人暮らし世帯の増加などにより、地域の見守りや相談支援の必要性が増大する中、川崎市では民生委員や児童委員の充足率の低下による影響が懸念されています。**春たかあき**は、ICTの活用による事務負担の軽減と現役世代をターゲットにした企業への取組みや人材のすそ野を広げるための大学生のインターンシップ制度の導入を提案しました。健康福祉局長は「ICTの活用による業務の効率化を検討し、現役世代や大学生の活用については、今後、他都市の事例研究や民生委員へのアンケート調査の実施等により人材確保を進めていく」と答えました。

災害時の迅速な医療提供体制と医療アクセスの確保を!

令和6年能登半島地震では基礎疾患を抱える高齢者の災害関連死が多数を占め、発災後に、かかりつけ医の被災・休診、道路事情の悪化などで移動困難となり、医療につながりにくく、容体の悪化につながったとの課題が示されました。**春たかあき**は、災害時の医療提供体制及び在宅配慮者を含めた市民の医療アクセスの確保について、現状の課題と対策について、見解を求めました。健康福祉局長は、「市内の37病院と1000か所超の診療所、650の薬局の機能継続と早期復旧を最優先するとの認識を、医師会や医療機関・薬局と共有し、役割分担と連携体制の構築を進めている。市民の速やかな医療アクセスを図るため、市ホームページ等で開院状況の公表の仕組みを整備する」と答えました。



**実現
しました!**

【実績：久地駅前の交差点】

通学路に「グリーンベルト」設置で安全を確保!

久地駅前の交差点では、踏切渋滞を避ける車が抜け道として通行し、通学路の安全面に課題が生じていました。すでに注意喚起の看板も設置されていましたが、それだけでは十分な効果が得られていないとの声を受け、**春たかあき**は、担当部局に対し、より実効性のある安全対策を求めました。

その結果、運転者に対して視覚的に減速を促す「グリーンベルト」の路面表示が実現しました。新学期を迎える子どもたちに、通学路の新たな安心が加わり、歩行者が安全に通行できる交差点になりました。

